

令和3年度 指導計画・評価計画 (学年: I 教科: 音楽)

学期	題材	教材	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	曲想の変化を感じ取り、歌唱表現を工夫しよう	<歌唱> 抜歌 混声二部合唱	【知】曲想と歌詞の内容の関わりについて理解している。 【技】創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声・言葉の発音・身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	【思】音色・速度・テクスチャ・強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	【態】曲想と歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
1	音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべよう	<鑑賞> 合奏協奏曲を聴こう	【知】曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	【思】音色・旋律・テクスチャ・形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	【態】曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
1・2	和楽器に親しもう	<器楽> 和楽器(箏)の演奏	【知】楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。	【思】音色・旋律・テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	【態】楽器の音色や響きと奏法との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組んでいる。
1	琴曲の特徴を感じ取り、その魅力を味わおう	<鑑賞> 「六段の調」	【知】音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。	【思】音色・速度・旋律・構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	【態】音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
2	日本の歌のよさや美しさを感じ取り、歌唱表現を工夫しよう	<歌唱> 独唱曲(日本歌曲) ※共通教材	【知】曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 【技】創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声・言葉の発音・身体の使い方など技能を身に付け、歌唱で表している。	【思】リズム・旋律・強弱・形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	【態】曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。
2	曲想と音楽の構造との関わりを味わおう	<鑑賞> 歌曲を聴こう	【知】曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	【思】音色・旋律・テクスチャ・強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	【態】曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
2	音のつながり方の特徴を感じ取り、創作表現を工夫しよう	<創作><鑑賞> 「リズム創作」	【知】音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 【技】創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。	【思】リズム・旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	【態】音のつながり方の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
2	曲の構成や曲想の変化を生かして、歌唱表現を工夫しよう。	<歌唱> 混声三部合唱	【知】曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 【技】創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声・言葉の発音・身体の使い方など技能、全体の響きや各声部の声などを聞きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表現している。	【思】音色・速度・テクスチャ・強弱・構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	【態】曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に取り組もうとしている。
2.3	曲の構成や曲想の変化を生かして、歌唱表現を工夫しよう	<歌唱> 合唱コンクール課題曲 合唱コンクール自由曲	【知】曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 【技】創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声・言葉の発音・身体の使い方など技能、全体の響きや各声部の声などを聞きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表現している。	【思】音色・速度・テクスチャ・強弱・構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	【態】曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。
3	思いをこめて合唱しよう	<歌唱> 混声三部合唱	【知】曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 【技】創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声・言葉の発音・身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	【思】音色・旋律・強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	【態】曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。

各観点の達成率80%以上・・・A 50%以上・・・B 50%未満・・・C

令和3年度 指導計画・評価計画（1学年 美術）

学期	領域	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		知識	技能	発想・構想	鑑賞	表現	鑑賞
1学期	美術について	<ul style="list-style-type: none"> 自分の主題や表現意図を明確にして工夫して制作する。 美しいと感じるものは人によって違うこと。良い作品とはうまい下手ではないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象物の持つ、造形性や色彩の面白さや美しさを発見し、特徴をとらえる。 教科書の作品を見て感じ取ったことを話し合い、見方を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術の目的や社会的な役割を理解し、意欲的に取り組む。 自分の見方や感じ方を広げ、お互いの作品の良さを理解する。 			
	スケッチ	<ul style="list-style-type: none"> 自分の主題や表現意図を明確にして工夫して表現する。 スケッチの意味や良さを感じ取り、描けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> スケッチでとらえた対象物の持つ、造形性や色彩の面白さや美しさを引きだして、構想を練る。 	<ul style="list-style-type: none"> スケッチの良さやを理解し、対象物の持つ、造形性や色彩の面白さや美しさを発見し、特徴をとらえる。 			
	デザイン	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や友達の作品を鑑賞し、作者の表現の意図や良さを理解する。 自然や生物の命の尊さや畏敬の念を育み、神秘や良さ祖いて美しさを発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や友達の作品を鑑賞し、作者の表現の意図や良さを理解する。 その国の文化や風土から生まれた様々な仮面の持つ魅力と多様な表現のよさや美しさを感じ取り味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や友達の作品を鑑賞し、作者の表現の意図や良さを理解する。 積極的に資料を収集したり、調べたりする 			
2学期	世界の作品鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えて制作しているのか、理解する 世界各国の風土や文化から生まれた作品を鑑賞し、共通点やその良さを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の風土や文化から生まれた、ユニークな想像力を引き出す表現方法を考える。 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫し、作品などに対する思いや考えを説明し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> その国の文化や風土から生まれた作品から、地方に根付いた素朴なユニークな世界に興味を持つ。 アねらいを理解し創造的に発想構想する。 			
	オブジェ制作	<ul style="list-style-type: none"> 自由な発想でイメージ化したものを材料、用具についての基礎的知識や技能を活用し制作をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 感性や創造力を働かせて、自由な発想でイメージ化したものを仮面で表すために芯作りや材料の組み合わせの構想を練る。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品のよさや美しさに関心をもち、自分らしくよりよい表現を目指して試行錯誤しつつ創意工夫することを楽しむ。 			
3学期	色彩について	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて方法を工夫し表現する。 身近な日常生活でデザインされた制作者の意図や工夫を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 色彩学習で学んだことを基に美的感覚を働かせて構成を練る。 形や色彩から対象のイメージをとらえ、話し合いながら見方や感じ方を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝達の効果と美しさの調和を感じ取り、作者の意図や工夫などを考え、見方や視野を広げている。 形や色の性質を理解し効果的に伝えようとしている。 			
	作品鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 伝える対象と目的を考えて、発想を広げ、形や色を工夫してデザインする。 絵画材料や用具の使い方を理解し、技法をマスターする。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いの作品を鑑賞して良さを見出し、多様な価値観を認め合う 用途や機能、材料を生かした構想を練る 	<ul style="list-style-type: none"> 感じ取ったことを話し合う活動に関心をもち、積極的に参加する。 鑑賞レポートを作成することで美術文化に対して理解と関心を高める。 			
評価規準		<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、造形的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさ、表現の意図や工夫。美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練り、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。 			

各観点の達成率80%以上をA、50%以上をB、50%未満をCとする

令和4年度 指導・評価計画（学年：1年 教科：保健体育）

年間授業計画

学期		1学期											2学期											3学期													
月		4月			5月				6月				7月		9月			10月				11月				12月		1月			2月			3月			
週		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	
第1学年	1			体育理論(1)				保健<4>			体づくり				水泳	体育理論(1)	保健<8>											体育理論(1)	保健<4>								
	2	体づくり<8>		陸上競技<11>				球技<8>				水泳<6>				器械運動<8>			武道<5>			陸上<7>				球技<9> ネット型			ダンス<8>			球技<8> ゴール型					陸上<3>
	3							ベースボール型				体づくり<3>																									

各分野別・各領域別

分類	運動領域	運動種目	1年	第1学年での 選択方法
体育分野	A 体づくり運動	ア 体ほぐしの運動 イ 体力を高める運動	必修	ア、イ必修
	B 器械運動	ア マット運動 ウ 平均台運動 イ 鉄棒運動 エ 跳び箱運動	必修	第2学年との2年間でアを含む②を選択
	C 陸上競技	ア 短距離走・リレー、長距離走 または、ハードル走 イ 走り幅跳びまたは、走り高跳び	必修	第2学年との2年間でア及びイのそれぞれから選択
	D 水泳	ア クロール ウ 背泳ぎ イ 平泳ぎ エ バタフライ	必修	第2学年との2年間でア又はイを含む②を選択
	E 球技	ア ゴール型 イ ネット型 ウ ベースボール型	必修	第2学年との2年間でア～ウのすべて選択
	F 武道	ア 柔道 イ 剣道 ウ 相撲	必修	第2学年との2年間でア～ウから①選択
	G ダンス	ア 創作ダンス ウ 現代的なリズムのダンス イ フォークダンス	必修	第2学年との2年間でア～ウから選択
	H 体育理論	運動やスポーツの多様性	必修	

<陸上競技・器械運動・水泳・球技・武道・ダンス>

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一・二・三学期	<ul style="list-style-type: none"> 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方や、各領域に関連して高まる体力・健康・安全の留意点について理解している。 運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組みや目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。
評価基準	方法 材料	ア、定期テスト イ、学習カード ウ、授業観察	ア、授業に取り組む姿勢 イ、授業観察
	各観点の達成率80%以上をA、50%以上をB、50%未満をCとする。		

<体育理論・保健分野>

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一・二・三学期	<ul style="list-style-type: none"> 運動やスポーツの多様性について理解している。 健康な生活と疾病の予防、心身の発達と心の健康について、個人生活を中心として、科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動やスポーツの多様性について、出された意見や集めた情報を分析したり、整理したりできる。 健康な生活と疾病の予防、心身の発達と心の健康について、個人生活における健康に関する課題を発見している。また、その課題の解決を目指して、科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとしている。 健康な生活と疾病の予防、心身の発達と心の健康について、資料を見て、自分の日常生活を振り返りながら課題を発見しようとしている。
評価基準	方法	ア、定期テスト イ、学習カード ウ、授業観察	ア、授業に取り組む姿勢 イ、授業観察
	各観点の達成率80%以上をA、50%以上をB、50%未満をCとする。		

- ① 技術への「意欲・関心・態度」を育み、思考・体験活動を通して、生活の中にある技術に目を向けさせる。
- ② 練習題材から基礎的・基本的な技術(スキル)を習得し、活用できるようにする。
- ③ 発達段階に応じた題材設定を行い、課題解決に向けて能動的に取り組むことができるように促す。
- ④ 生活の問題点や改善点を発見し、様々な条件の中で解決方法を考え、実践する姿をめざす。
- ⑤ 各題材で、技術を評価し活用することを学習することで、持続可能な社会の構築を目指す生徒を育む。

月	単元名	時数	学習内容	観点別評価規準と評価方法		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5 6 7	【情報に関する技術】	1 2 2 2 4	<ul style="list-style-type: none"> ・技術のガイダンス ・生活の中の情報技術 ・コンピュータの機能と利用例 ・コンピュータの構成 ・コンピュータの操作 ・安全に利用するための情報モラル 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを構成する主要な装置と、基本的な情報処理の仕組み、情報をコンピュータで利用するために必要なデジタル化の方法についての知識を身に付けている。 ・コンピュータの機能と構成を理解し、的確に操作する技術を身に付けている。 ・情報の特性を理解して情報を安全に利用することができる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの操作方法を的確に身に付ける方法を工夫し、見出そうとしている。 ・いろいろなメディアの特徴、利用方法、適切なソフトウェアなどを検討した上で、デジタル化の方法などを決定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの利用例を具体的に上げて調べようとしている。 ・情報社会において適正に活動しようとしている。 ・課題に意欲的に取り組みコンピュータの操作技術を身に付けようとしている。 ・情報が社会に与える影響を理解して、望ましい情報社会のために取るべき技能を身に付けようとしている。
			<ul style="list-style-type: none"> 1学期 評価方法・評価場面 A 80%以上 B 50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・授業観察 ・実習 ・作品 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・授業観察 ・定期考査 ・作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・授業観察 ・実習 ・作品
9 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> 【生物育成に関する技術】 生物育成に関する技術を利用した栽培 【情報に関する技術】 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決 	<ul style="list-style-type: none"> 2 2 5 2 1 2 	<ul style="list-style-type: none"> ・作物がよく育つ環境を考えよう。 ・作物の栽培計画 ・作物育成に関する技術を利用した栽培 ・双方向性のあるコンテンツとは ・コンテンツの構想 ・コンテンツのプログラムの制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培計画に基づき適切に作物の栽培管理を行うことができる。 ・課題に適したソフトウェアを適切に選び、活用し、デジタル作品を制作することができる。 ・画像ファイルを取り込み、文書処理ソフトと図形処理ソフトの機能を考えデジタル作品を制作することができる。 ・メディアの素材の特徴と利用方法や、適切なソフトウェアを選択し、多様なメディアを利用する方法についての知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培する作物の特徴を考え、より適した栽培方法を考え等栽培計画を立てることができる。 ・使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法を構想する力を身に付けている。 ・技術の見方・考え方を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物育成に関する技術の課題を進んで見付け、社会的、環境的側面などを考慮し、適切な解決策を示そうとしている。 ・環境に対する負荷の軽減や安全に配慮して栽培方法を検討しようとしている。 ・利用者が安心して利用できる作品を設計・制作しようとしている。 ・新しい発想を生み出し活用しようとしている。
			<ul style="list-style-type: none"> 2学期 評価方法・評価場面 A 80%以上 B 50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・授業観察 ・実習 ・作品 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・授業観察 ・定期考査 ・作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・授業観察 ・実習 ・作品
1 2 3	【材料と加工に関する技術】	3 2 5	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツのプログラムの制作 ・問題解決の評価、改善・修正 ・材料と加工に関する技術を利用した製品の設計(製図)について ・等角図について ・投影図について 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグができる技能を身に付けている。 ・作品の構想を等角図や投影図でかき表すことができる。 ・投影図でかき表された図を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理の手順を具体化する力を身に付けている。 ・よりよい生活や持続可能な社会を築くために、情報に関する技術を適切に評価し活用している。 ・情報に関する技術の利用場面に応じて、適正に活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報に関する技術の利用場面に応じて、適正に活動している。 ・よりよい社会を築くために、情報に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。 ・製図の役割を理解、積極的にかつようしようとしている。
			<ul style="list-style-type: none"> 3学期 評価方法・評価場面 A 80%以上 B 50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・授業観察 ・実習 ・作品 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・授業観察 ・定期考査 ・作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・授業観察 ・実習 ・作品

令和4年度 指導・評価計画(1年：技術・家庭科 家庭分野)

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
項目	ガイダンス	食事の役割と中学生の栄養の特徴・中学生に必要な栄養を満たす食事・日常食の調理と地域の食文化																																	
学習内容	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割 ・健康に良い食習慣 ・食品に含まれる栄養 ・6つの食品群 ・朝食と献立作成 ・栄養素の種類と働き ・中学生に必要な栄養素 ・食品群別摂取量の目安 ・家庭生活の中で課題を見つけ実践する ・食品の選択と購入 ・生鮮食品と加工食品 ・食品の保存と購入 ・日常食の調理 ・食品と環境問題 																																	

学期	項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1・2・3 学期	ガイダンス	・自分の成長を振り返り自分の成長や生活がどのような人々に支えられてきたか考えることができる。	・今の自分ができていることを点検することで、課題を見つけることができる。	・小学校での学習を踏まえ3年間の学習の見通しをたてることができる。
	食事の役割と中学生の栄養の特徴・中学生に必要な栄養を満たす食事・日常食の調理と地域の食文化	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で食事が果たす役割について理解している。 ・中学生に必要な栄養の特徴が分かり、健康によい食習慣について理解している。 ・栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的特質について理解している。 ・中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解している。 ・日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。 ・食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。 ・材料に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。 ・地域の食文化について理解しているとともに、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食習慣について問題を見いだし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・中学生の1日分の献立について問題を見いだし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・日常の1食分の調理における食品の選択や調理の仕方、調理計画について問題を見いだし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活の実現に向けて、食事の役割と中学生の栄養の特徴について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・よりよい生活の実現に向けて、中学生に必要な栄養を満たす食事について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、日常食の調理と地域の食文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
評価基準	方法	ア ワークシートの内容(課題含む) イ 課題への取り組み ウ 授業態度 エ 定期考査	ア ワークシートの内容(課題含む) イ 課題への取り組み ウ 授業態度 エ 定期考査	ア ワークシートの内容(課題含む) イ 課題への取り組み ウ 授業態度 エ 定期考査
	A	上記観点を十分に達成したと判断できる場合	上記観点を十分に達成したと判断できる場合	上記観点を十分に達成したと判断できる場合
	B	上記観点をおおむね達成したと判断できる場合	上記観点をおおむね達成したと判断できる場合	上記観点をおおむね達成したと判断できる場合

観点の達成率
 A・・・80%以上
 B・・・50%以上
 C・・・50%に満たない

令和4年度 指導計画・評価計画 (学年：1 教科：英語)

学期	単元	指導項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学期	Starter	アルファベット フォニックス 辞書指導	・指導項目記載の学習表現に関する知識を身に付けている。 ・学習した表現や語句を含む文を読み取ることができる。 ・自己紹介の内容を読み取ることができる。 ・書き手や話し手の意向を読み取ることができる。	・学習した表現や語句を正しく運用することができる。 ・自己紹介のまとまった英文を書くことができる。 ・日常生活の身の回りのことをたずねることができる。	・必要な情報を意欲的に聞き取ろうとする。 ・積極的に言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする。 ・学習した表現を総合的に使い、よりよい表現になるよう工夫しようとする。 ・教科書の音読練習や発表、面接などの活動に積極的に取り組もうとする。
	Lesson 1 Get plus 1	be 動詞 (am,are) の現在形 一般動詞 What~?	・指導項目記載の学習表現に関する知識を身に付けている。 ・学習した表現や語句を含む文を読み取ることができる。 ・書き手や話し手の意向を読み取ることができる。 ・ある人物についての紹介を読み取る／聞き取ることができる。 ・外国の文化が書かれている文章を読んで、理解することができる。	・学習した表現や語句を正しく運用することができる。 ・can を用いた文を使ってできることを書くことができる。 ・一般動詞 (三人称) を使って人物の紹介をすることができる。 ・現在進行形を使ってクイズに答えることができる。 ・過去形を使って過去のことを紹介することができる。	・必要な情報を意欲的に聞き取ろうとする。 ・積極的に言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする。 ・学習した表現を総合的に使い、よりよい表現になるよう工夫しようとする。 ・教科書の音読練習や発表、面接などの活動に積極的に取り組もうとする。
	Lesson 2 Get plus 2	助動詞 can How many~? 名詞の複数形 数の数え方	・指導項目記載の学習表現に関する知識を身に付けている。 ・学習した表現や語句を含む文を読み取ることができる。 ・書き手や話し手の意向を読み取ることができる。 ・ある人物についての紹介を読み取る／聞き取ることができる。 ・外国の文化が書かれている文章を読んで、理解することができる。	・学習した表現や語句を正しく運用することができる。 ・can を用いた文を使ってできることを書くことができる。 ・一般動詞 (三人称) を使って人物の紹介をすることができる。 ・現在進行形を使ってクイズに答えることができる。 ・過去形を使って過去のことを紹介することができる。	・必要な情報を意欲的に聞き取ろうとする。 ・積極的に言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする。 ・学習した表現を総合的に使い、よりよい表現になるよう工夫しようとする。 ・教科書の音読練習や発表、面接などの活動に積極的に取り組もうとする。
2 学期	Lesson 3 Listen 1 Talk 1 Project 1	be 動詞 (is) Who~? 命令文	・指導項目記載の学習表現に関する知識を身に付けている。 ・学習した表現や語句を含む文を読み取ることができる。 ・書き手や話し手の意向を読み取ることができる。 ・ある人物についての紹介を読み取る／聞き取ることができる。 ・外国の文化が書かれている文章を読んで、理解することができる。	・学習した表現や語句を正しく運用することができる。 ・can を用いた文を使ってできることを書くことができる。 ・一般動詞 (三人称) を使って人物の紹介をすることができる。 ・現在進行形を使ってクイズに答えることができる。 ・過去形を使って過去のことを紹介することができる。	・必要な情報を意欲的に聞き取ろうとする。 ・積極的に言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする。 ・学習した表現を総合的に使い、よりよい表現になるよう工夫しようとする。 ・教科書の音読練習や発表、面接などの活動に積極的に取り組もうとする。
	Lesson 4 USE Write USE Speak Listen 2 Talk 2 Get plus 3	一般動詞 (三人称) 人称代名詞 What time~? Which~?	・指導項目記載の学習表現に関する知識を身に付けている。 ・学習した表現や語句を含む文を読み取ることができる。 ・書き手や話し手の意向を読み取ることができる。 ・ある人物についての紹介を読み取る／聞き取ることができる。 ・外国の文化が書かれている文章を読んで、理解することができる。	・学習した表現や語句を正しく運用することができる。 ・can を用いた文を使ってできることを書くことができる。 ・一般動詞 (三人称) を使って人物の紹介をすることができる。 ・現在進行形を使ってクイズに答えることができる。 ・過去形を使って過去のことを紹介することができる。	・必要な情報を意欲的に聞き取ろうとする。 ・積極的に言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする。 ・学習した表現を総合的に使い、よりよい表現になるよう工夫しようとする。 ・教科書の音読練習や発表、面接などの活動に積極的に取り組もうとする。
	Lesson 5 USE Write Listen 3 Talk 3 Get plus 4	現在進行形 Whose~?	・指導項目記載の学習表現に関する知識を身に付けている。 ・学習した表現や語句を含む文を読み取ることができる。 ・書き手や話し手の意向を読み取ることができる。 ・ある人物についての紹介を読み取る／聞き取ることができる。 ・外国の文化が書かれている文章を読んで、理解することができる。	・学習した表現や語句を正しく運用することができる。 ・can を用いた文を使ってできることを書くことができる。 ・一般動詞 (三人称) を使って人物の紹介をすることができる。 ・現在進行形を使ってクイズに答えることができる。 ・過去形を使って過去のことを紹介することができる。	・必要な情報を意欲的に聞き取ろうとする。 ・積極的に言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする。 ・学習した表現を総合的に使い、よりよい表現になるよう工夫しようとする。 ・教科書の音読練習や発表、面接などの活動に積極的に取り組もうとする。
	Lesson 6 USE Write Listen 4 Talk 4 Project 2	動詞の過去形 How ~? Where~?	・指導項目記載の学習表現に関する知識を身に付けている。 ・学習した表現や語句を含む文を読み取ることができる。 ・書き手や話し手の意向を読み取ることができる。 ・ある人物についての紹介を読み取る／聞き取ることができる。 ・外国の文化が書かれている文章を読んで、理解することができる。	・学習した表現や語句を正しく運用することができる。 ・can を用いた文を使ってできることを書くことができる。 ・一般動詞 (三人称) を使って人物の紹介をすることができる。 ・現在進行形を使ってクイズに答えることができる。 ・過去形を使って過去のことを紹介することができる。	・必要な情報を意欲的に聞き取ろうとする。 ・積極的に言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする。 ・学習した表現を総合的に使い、よりよい表現になるよう工夫しようとする。 ・教科書の音読練習や発表、面接などの活動に積極的に取り組もうとする。
3 学期	Lesson 7 USE Speak Listen 5 Talk 5 Get plus 5	be 動詞の過去形 過去進行形 look ~	・指導項目記載の学習表現に関する知識を身に付けている。 ・学習した表現や語句を含む文を読み取ることができる。 ・書き手や話し手の意向を読み取ることができる。 ・ある人物についての紹介を読み取る／聞き取ることができる。 ・外国の文化が書かれている文章を読んで、理解することができる。	・学習した表現や語句を正しく運用することができる。 ・can を用いた文を使ってできることを書くことができる。 ・一般動詞 (三人称) を使って人物の紹介をすることができる。 ・現在進行形を使ってクイズに答えることができる。 ・過去形を使って過去のことを紹介することができる。	・必要な情報を意欲的に聞き取ろうとする。 ・積極的に言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする。 ・学習した表現を総合的に使い、よりよい表現になるよう工夫しようとする。 ・教科書の音読練習や発表、面接などの活動に積極的に取り組もうとする。
	Lesson 8 USE Write Listen 6 Talk 6 Get plus 6 Project 3	助動詞 will be going to ~ Can you~? / Will you~? How much~?	・指導項目記載の学習表現に関する知識を身に付けている。 ・学習した表現や語句を含む文を読み取ることができる。 ・書き手や話し手の意向を読み取ることができる。 ・日記を読み、内容を理解することができる。 ・長い文章を読み、内容を理解することができる。	・学習した表現や語句を正しく運用することができる。 ・助動詞 will, be going to ~ を使い、自分の予定や将来のことについて表現することができる。 ・How much~? を使い、話し手に値段を尋ねることができる。 ・Can you~? / Will you~? を使い、話し手にお願いをすることができる。	・必要な情報を意欲的に聞き取ろうとする。 ・積極的に言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする。 ・学習した表現を総合的に使い、よりよい表現になるよう工夫しようとする。 ・教科書の音読練習や発表、面接などの活動に積極的に取り組もうとする。
評価	評価方法		← スピーチなどの発表、英作文などの自己表現を伴う実技テスト →		
			語彙テスト	シミュレーションテスト	グループ・ペア活動
評価基準			← 各学期の定期テスト →		
			各評価場面での評価項目において、十分に満足できる状況を 100% とした場合の、80% 以上を A、50% 以上を B とする。Lesson ごとの実技テストにおいては、事前に評価項目、規準を明確にし、事後には項目ごとの評価を返却する。また、その学期内に実施した評価項目や個人の評価の結果などを「学習の記録」として生徒・保護者に提示する。		